

2024年度(令和6年度)学校評価自己評価表

城南中学校区	校番 5	福山市立川口小学校
最終更新日		2025年(令和7年)2月3日

I 福山市

ミッション 福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン 「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

<p>前年度学校関係者評価の主な内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 多くの児童生徒が、授業や特別活動の各場面で主体的な意思決定ができ、「学校が楽しい」「学びが面白い」と感じている。 教師がいきいきと働いている様子が児童生徒に好影響を与えている。 児童生徒の実態からよりよい姿にするためにも評価指標を検討してほしい。 	<p>児童生徒の現状</p> <ul style="list-style-type: none"> 「自ら考える、決める、選ぶ」を実践していると肯定的に捉える児童生徒が増加している。 多くの児童生徒が「学校が楽しい」「学びが面白い」と感じている。 言葉の理解や表現すること、数の理解に課題がある。 	<p>育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)</p> <p>めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)</p> <p>中学校区として統一した取組等</p>	<p>課題発見する力(課題を見つける) 対話する力(コミュニケーション) 認める態度(人としての思いやり)</p> <ul style="list-style-type: none"> 自己を認識し、自分の人生を選択し、表現することができる児童生徒 様々な課題を自ら求め、お互いの意見を尊重しながら対話による課題解決を図る主体性を持つ児童生徒 <p>○ 学習指導要領に立ち返り、言葉と数にこだわった授業づくりを目指した協議を継続する ○ 各校での研修にお互い参加し合い、事後協議等において共通課題に対する各校の取組や状況を交流する。</p>
--	---	--	---

III 自校

<p>ミッション</p> <p>お互い(友達、同僚)を尊重し、組織(学級、学校)の中で協働しながら、自分自身とその家族を大切に、子どもたちとともに失敗を恐れず、チャレンジし、人間味あふれる自分のビジョンを語る教職員のもとで、「思いやりの心を持ち、自己決定できる」児童を育成する。</p>	<p>育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)</p> <p>めざす子ども像</p>	<ul style="list-style-type: none"> 課題発見解決力(自己決定) 対話する力(コミュニケーション) 認める態度(思いやり) <p>「思いやりの心」をもち、様々な課題に対し、自身の知識や経験をもとに、お互いの意見を尊重しながら対話による課題解決を図る主体性をもつ児童</p>
<p>学校教育目標</p> <p>思いやりの心を持ち、自己決定する子</p>		
<p>現状</p> <p><児童> ○教職員の連携を密にし、組織で対応することで、児童が落ち着いて学習に取り組める環境が整っている。 ○国語科を中心に、授業研究を進めることで、子ども主体の学習が進んでいる。 ●学力が定着するのに時間がかかる児童に対する取組を工夫していく必要がある。 ●お互いを尊重し合う集団づくりに取組む必要がある。</p> <p><地域・家庭> ・学校教育推進に協力的である一方で児童よりも保護者対応に苦慮する場面も多々ある。 ・警察、家庭センター等の連携が多い。</p>	<p>テーマ</p> <p>研究</p> <p>内容等</p>	<p>自ら学びをつなぐ児童の育成 ～個々の見方・考え方を活かした授業づくりを通して～</p> <p>児童自身が「教材と自分」「仲間と自分」「学習したことを次の学びへ」つなぐことで、本質的な問いに迫り、見方・考え方を広げたり、深めたりして深い学びにつなげていく。</p> <p>めざす授業の姿</p> <ol style="list-style-type: none"> 教材とこれまでの学びをつなぐ これまで学んだこと(知識・技能)を総動員し、解決に向けて考える姿を引き出す 仲間と自分の考えをつなぐ 自分の考えや集団としての学びを深める姿を引き出す 学習した見方・考え方を次の学びにつなぐ 仲間とよさを分かち合い、自ら次の学びにつなぐ姿を引き出す

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立川口小学校

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)					
							□指標に係る取組状況	70%以上評価	達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営目標の達成状況	70%以上評価	達成評価	総合評価	改善方策
1	自ら学びをつなぐ児童の育成	★	新規	学び合うことができる児童の育成	①自己表現と自己評価の場となるノートづくりを行う。 ②仲間と自分の考えをつなぐために「つなぎ言葉」を使って対話の質を高める。	児童アンケートにおいて、「学び合うことができる」と回答する児童の割合を80%以上にする。	児童アンケート 肯定的回答 95.6% ①定期的に職員で児童のノートを見合い、視点をもってノート指導ができるようにした。また、1学期末にはノートコンテストを行い、児童同士でノートのまとめ方を共有することができた。 ②「つなぎ言葉」をまとめたものを配布したが、児童が十分活用するまでには至らなかった。対話については課題が残る。	3	3	①学期に1回はノートコンテストを行い、児童が思考を整理したり、学びを自覚したりすることができるオリジナルノートづくりを行う。 ②毎週水曜日の「くすのきタイム」につなぎ言葉を活用した「ことばの時間」を行い、対話の質の向上を図る。	児童アンケート 肯定的回答 98.2% ①学期に1回ノートコンテストを行い、前期ではノートのまとめ方のトップイメージを児童と共有した。後期では、前期で学んだまとめ方を自分なりに工夫してオリジナルノートを作成した。そして、各クラスで児童同士のノートを見合い、さらにまとめ方を共有した。 ②毎週「ことばの時間」を行い、つなぎ言葉を意識して使うことができた。授業の中で、少しずつつなぎ言葉を使えるようになってきた。	4	4	4	授業の中で、ノートに整理する時間を確保し、授業で学んだことを整理する時間を設けていきたい。また、対話が生まれやすい机の配置や学習環境を整えていく必要がある。
1	自ら学びをつなぐ児童の育成	★	新規	自他ともに認め合える児童の育成	①子どもたちが話し合いを通して、人のかかわりを増やし、困難に立ち向かう力を高める活動「クラス会議」を行う。 ②「ロングタイム大休憩」を活用し、異学年が交流できる取り組みを行う。	児童アンケートにおいて、「学校では安心して過ごすことができる」と回答する児童の割合を90%以上にする。	児童アンケート 肯定的回答 96.9% ①クラス会議について、カリキュラムにクラス会議を位置づけ、定期的に学級の課題やお楽しみ会の計画、各学校行事への目標などを話し合うことができた。 ②毎週金曜日に「ロングタイム大休憩」を設定した。児童会が中心となって取組を考え、実施したが、十分に異学年交流することができなかった。	3	3	①今後も様々な学校行事を通して、クラス会議を活用し、子どもたちで目標・取組計画などを話し合っていく。 ②「ロングタイム大休憩」を毎週火曜日に移動させ、学校に隣接する幼稚園跡地でのふれあいサロンに子どもたちが訪れやすい環境をつくり、地域の方との交流の輪を広げていけるようにする。	児童アンケート 肯定的回答 96.3% ①学期に1回、クラス会議の研修を行い、子ども主体的になって、解決していく能力を高めることができた。 ②各委員会が、異学年が交流できる様々なイベントを企画・運営することで、関わりの輪を広げることができた。	4	4	4	自分達の学級・学年だけでなく、さらに異学年へ交流の輪を広げていけるように、児童会を中心としたイベント・取組や縦割り掃除の充実などを行っていきたい。
1	自ら学びをつなぐ児童の育成		新規	健康的な体づくりに向けて自己決定する児童の育成	①体育科の学習において、児童が自身の課題や技能に合わせて活動の場を選択できるような環境づくりを行う。 ②行事や委員会活動、学級活動において、児童がめあての達成に向けて主体的に活動できるように支援を工夫する。	児童アンケートにおいて「健康的な体づくりに向けて自分で考え、行動している」と回答する児童の割合を80%以上にする。	児童アンケート 肯定的回答 90.6% ①場の選択ができる環境づくりのために、職員研修を通して発達段階ごとの運動のポイントについて理解を深めた。 ②児童が主体的に活動できるように、6年生が中心となって運動会を運営していくための役割分担を明確にし、支援を行った。	3	3	①発達段階ごとの鍵となる動き・運動を明確にすることで、教師にとっては指導のしやすさ、児童にとっては課題設定や場の選択のしやすさにつなげていく。 ②体育委員会を中心に体を動かす場や自分の運動について振り返る場を設け、児童が主体的に活動できるようにする。	児童アンケート 肯定的評価 90.9% ①実技研修を通して指導ポイントについて共有を図り、教師の指導力の向上や学習活動における児童の主体性を高めることができた。 ②体育委員会が集会活動を企画し、様々な運動に親しむ場を設けることができた。	4	3	4	自分自身の運動に関する課題に向けた自己選択・自己決定を行うことができるように、目指す姿やゴールイメージを意識させるような機会や場づくりを行っていきたい。
3	教育公務員としての専門性及び規範意識をもった教職員		見直し	仕事にやりがいをもち主体的に業務に取り組む教職員の育成	①主任・主事を中心に適宜教材研究や学年会を設定しコミュニケーション機会の充実を図る。 ②45時間、年間360時間を意識した仕事の内容、量、手法について業務改善に努める。	教職員アンケートにおいて「仕事にやりがいを感じている教職員」と回答する割合を90%以上にする。	教職員アンケート 肯定的評価 95.7% ①企画委員会等の会議で、学習指導や生徒指導に係る方向性を共有することを通して、組織的に教育活動を行うことができています。 ②時間外在校等時間が月4.5時間以内だった職員は90%であった。	3	3	①主任・主事を中心に、各学年・分掌を計画的に運営することで、教材研究や学年会を充実させる。働きやすい職場づくりを進める。 ②業務内容の精選だけでなく、主任主事を中心に各部署が見通しをもって仕事に取り組めるよう、情報共有を徹底する。	①主任・主事が中心となり、各取組の進捗管理を適切に行うことや内容の精選を行うことができた。また、職員が主体的に研修に参加したり、コミュニケーション機会の充実したりすることがやりがいにつながっている。 ②時間外在校等時間が月4.5時間以内だった職員は100%であった。	4	4	4	次年度に向けて行事の見直しや時程の変更、教科担任制や習熟度学習の充実について検討することを通して、子どもにとっても教師にとってもやりがいを感じるような教育課程の編成を行っていく。

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]		
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準	
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。